

夕陽會報



第185号

七財橋より望む函館山



◇巻頭言◇

祖国・故郷・夕陽會

監査 松田明雄

(昭和30年卒)

先の大戦で、生まれ故郷を喪失した私にとって、次のようなニュースは異常なほど心に強く響くものがある。

「三宅村民、生活再建へ一歩、第一陣四年五ヶ月ぶりの帰島」(二月二日道新) 帰島第一陣の客船には、村民六十二人と関係者が乗船し、「不安を抱えての帰島だが三宅島の復興を見せたい。」また、火山ガスとの共生にも、ある高齢者は「火山ガスが出ていても、生まれ育った島で死にたい。」と語ったとある。

生まれ故郷に住んでいる人や、いつでもそこへ帰ることが出来る人には、島の人々の心底までは分からないのではないかと推測する。

これが祖国であつたらどうであろうか。拉致されたまま、いまだに祖国の土を踏めない人々がいるとの疑念は消え去るものではない。その人々の苦悩は、火山活動や地震による避難とは比較できないものである。だが、それに耐え抜いてきた人々の生き様を見聞するにつれ、人間の逞しさを改めて知らされると共に、祖国、故郷の意味を考えさせずにはおかないのである。

そして、祖国、故郷の線上に夕陽會が存在しているいつも実感しているのがある。私には、小学校の同窓会がない。そればかりか、卒業式もなく、したがって卒業証書を手にする事はなかった。

因みに退職の年、卒業生二クラスで最後の授業をさせて戴いた折、戦時中の小学校生活、空襲、敗戦、ソ連の子どもた

ちとの交流などの話をしたのであるが、卒業式の後、公民館での「卒業を祝う会」で、卒業生一同として、卒業生の手から卒業証書戴いたのである。勿論、私製の卒業証書であるが、私の第一のお宝となっている。その上、二〇〇七年のクラス会の招待状も戴いている。その日まで元気でいなくては常に考えて、退職後十年余を生きてきたところである。

さて、同期会やクラス会の長寿?の秘訣は、幹事長の力量とそれを支える人を得ることである。陰ながら応援しようと思ひながら、微力すら出せないでいる自分を恥じている次第である。

祖国、故郷、夕陽會、そこには、血液のような生きる根源、温かみ、躍動が存在しているのである。母国、母郷、母校、この響きの何とよいことか。それは、私の原風景、詩心の泉、生きる支えともなっており、日々の暮らしの中で絶えず意識され、生涯ついて巡る命題となつていのである。俳句もそこから生まれてくるのは言うまでもない。

ところで、八十歳を期に集まりを終えた会がある。私達も自家用車での分乗を自粛し、列車やバスで集まろうとの声がある。そして私達の集いもあと十年程(六十周年)で限度が来ようか。

たとえ同期会の集いになくなったとしても、夕陽會は永遠に存在する。新しい若い会員が、支部や同期会などの活動を盛り上げ、その勢いを本部へ寄せてほしいものと切に祈るところである。

栄誉に輝く同窓



○ 瑞宝双光章

追想

函館市 加藤 彬

(昭和11年卒)

思い出多い母校を卒業し、教職につき四十一年の年月を経て、児童館勤務五年、道退職公務員連盟支部長を十余年、先輩の指導と皆様の厚情を戴き、今日に至りました。この度、高齢者叙勲の勲記と勲章をいただき、身に余る光栄に感激致している所でございます。

教職在任中は、美術研究会に加わり、推されて会長を務め、学童の優れた作品が多数出るようになり、関係者の皆と喜び合いました。絵画の展覧会は、もとより地方作品の交流が活発になり、レベルは向上し、コンクールには、見事な作品

が登場したものです。

美研の仲間との交流も多く、お互いに刺激し合って、よい思い出になっていきます。また児童館の勤務の時は、幼児達とグループになり、遊んで楽しい時を過ごしたものです。その後、退職公務員連盟の支部長を中沢先輩の後をついで、先年度まで務めました。皆様の協力、援助によって今日があるものと、感謝の念でいっぱいでございます。

これからも、尚一層、健康に留意して一日一日を大切に過ごしたいと、念じております。



○ 瑞宝双光章

同窓に支えられて

浦河町 毛内 善三

(昭和22年卒)

今回、思いがけなく叙勲の栄に浴しましたが、顧みて三十七年間の在職中、特筆すべき貢献度もない者が戴いて本当によいものか迷いました。しかし、支えてくれた方々や次に続く者のためにもとの助言に従うことにしました。

思えば自分の今日あるのも、節目ごとに先輩に恵まれたことにより、師範の道を薦めてくれた担任のA先生(昭5卒)、校長昇任試験時に叱咤激励してくれたM教育長(昭13卒)、そして教育長就任後積極的に叙勲関係資料の整備

充実を進めたI教育長(昭22卒)等々、十指に余る諸兄の御支援の賜にほかなりません。

在職中担当した管内教頭会長・町校長会長・教研連会長等は御興の飾り同然、同窓に限らず多くの方々の御指導・御協力があったからこそ全うすることができました。末尾になりましたが、受章にあたり本当に多くの方々より祝電や祝詞をいただき受章式にもまして感激した次第です。誠にありがとうございました。



○ 瑞宝双光章

多くの方に支えられて

恵庭市 細井 道三

(昭和22年卒)

昭和二十二年春旧海軍の飛行場が在った、根室の計根別小学校に赴任、初任給三百九十円、六三制の実施と共に教頭さんが校長として転出、六人の先生は皆代用先生、したがって自然に最年少の私が教頭職を取るようになりました。

高等科を卒業したばかりの給仕さんの俸給が四百二十円、私の給料では衣・食・住まかなえるわけがありません。大学を出た方は、薄給の教師を避けて他の職へ、PTA会長さんや、校長さんは、先生探しに苦労していました。

教師が真剣に教育に取り組むためには、

生活の安定が必要と組合活動も致しました。北教組中標津支部の支部長として決闘も振りましたが、児童・生徒を犠牲にするストは絶対しませんでした。乱暴な若い教頭でしたが、先生方も父母もよく協力してくれました。

その後中標津小学校を経て三十七歳で別海町昭和小学校校長に、以来教頭職十五年校長職二十四年若輩の私は、夕陽の先輩の引き立てと、後輩の支えで、充実した教師生活ができました。今回の受賞は、限らない多くの方々の支えのおかげであり心から感謝申し上げます。



○ 瑞宝双光章

調停委員功労の栄に浴して

函館市 船矢 美幸

(昭和29年卒)

平成十六年秋の叙勲に際し、調停委員功労により瑞宝双光章を拝受しました。去る十一月八日最高裁判所に於て勲記勲章の伝達式が長官により行われ、立食祝賀会の後、配偶者同伴で皇居に参内し天皇陛下の拝謁を賜りました。

時代の変遷と共に人々の価値観も多様化してまいりましたが、「人権の尊重」と「平和への希求」は根元的な命題だと思います。

最高裁判所大ホールにある二つの美しいブロンズ像の前にしばし佇みました。右手のはギリシャ神話の法の女神をモデル化したもので(圓鋸勝三作)正義への意志の剣と衡平、平等の天秤を手にしています。左側のは「椿咲く丘」(富永

真樹作)で、少年・少女が座るベンチに鳩が集まっていて、愛と平和を表しているものでした。

誰のものでもない只一度の人生をどの様に生きるか、夕陽會員としてひとり、一人の胸に埋み火が静かに燃えています。皆様、有難うございました。



御姿を春秋の間に菊薫る
枯蓮の池に青空ひろがり



○瑞宝双光章

心に残る 深い感動

上磯町 磯部 正博
(昭和32年卒)

平成十六年、秋の叙勲に際しまして、瑞宝双光章の受章の栄に浴し、身にあまる光栄と存じ、心から感謝いたしております。誠にありがとうございます。

平成十六年十一月十日、国立劇場大劇場において、勲記・勲章の伝達を受け、引き続き妻と共に皇居に参内し、豊明殿において、天皇陛下から、お言葉をいただき、拝謁の栄を賜りました。

皇居の樹木を、秋の日ざしが、やわらかい光でつつみ、私たちにとって、深い感動のなかで、忘れることができない、心に残る一日となりました。

私は、教諭、教頭、校長として教職の道を歩むなかで、多くの校長先生、教頭先生、諸先生のご指導、ご協力、ご支援をいただきました。また、行政や教育関係機関・団体のご指導、ご協力、ご支援をいただきました。

そのおかげで、子どもたちのために、先生方、父母の皆様、地域の皆様と共に力を合わせ、充実した教職生活を過ごすことができたと考えております。

このたびの受章は、皆様のおかげであることを想い、重ねて、心から、お礼申し上げます。ありがとうございました。



○藍綬褒章

家庭に平和を少年に希望を

函館市 清野 弘子
(昭和39年卒)

このたびは思いもかけず、受章の栄に浴しまして、皆様の温かいご指導、ご支援の賜と深く感謝致しております。

調停委員功労との新聞発表がされまうと早速沢山の祝詞、祝電が寄せられ、恐縮致しました。なかでも、小学校の恩師からの電話は思いもかけず、そのお声を聞いた途端、感動の涙があふれました。

調停委員に任命されたのは昭和五十八年四月一日で、以来二十二年間、多数の家事・民事事件に携わって参りました。

褒章の伝達式は十一月十五日、最高裁判所で行われました。庁舎は壁や床に十萬枚もの花崗岩を使った壮大な建物でした。特に大法廷は直径十四メートルの円筒型の吹き抜けで、照明具を少なくし、天井より太陽光を取り入れる設計となっておりました。

人々に衡平・平等の光を降り注ぐ裁判所の精神を表しているものと心に留めました。これからも、この榮譽に恥じることなく、調停に尽力したいと決意も新たにしております。

終わりに、夕陽会のみますますのご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げ、お礼いたします。



○文部科学大臣表彰視聴覚教育功労者

皆様に支えられて

函館市 斎藤 幸子
(昭和32年卒)

夕陽会各位のあたたかいお祝いのごことばをお届け頂きまして感慨無量でした。

平成十三年開催の北海道放送教育研究大会（北見大会）において、平成十三年度視聴覚教育功労者（各地功労者）表彰を頂き、放送教育、視聴覚教育の取り組みについて振り返る機会になりました。

市立函館幼稚園に奉職、放送の洗練された教材性に魅力を感じ保育実践を進めてきました。研究会等では小学校、中学校、高校の先生方の研究に対する姿勢に

○北海道教育功績者表彰

皆様のご指導・ご支援に心より感謝いたします

函館市 石戸 大機
(昭和42年卒)



平成十六年十二月十四日、北海道教育功績者表彰という身に余る栄に浴し、その責任の重さを改めて実感しております。

表彰式前夜には、同窓の指導主事等会の方々が祝賀会を開催してくださり、顧問の皆様や懐かしい同期の面々と再会する機会を得ることができました。ご多忙のところをわざわざ川島会長さんと藤川幹事長までご出席くださり、同窓の皆様との心温かさ感激しております。表彰式を終えての帰路、ほっとした気持ちに包まれながら、これまで数々のご指導とご支援をもとに私を導いて下さった多

くの方々の温かな笑顔が脳裏に浮かんでまいりました。

今、教師生活三十八年を終えようとしておりますが、これまで出会った多くの子ども達によつて、教師としての醍醐味を何度も味わうことができました。もしも再び生まれ変わることができたら、やはり教師であり続けたいと願うほどです。それだけに、同窓、先輩、同僚など多くの方々に強く支えられてきた幸せと感謝の思いを改めて深く感じています。

ありがとうございました。夕陽会の更なる発展を心からお祈りいたします。

○北海道教育功績者表彰

賞の重さを数多のご教示の重さとして胸に刻んで...

上ノ国町 笹原 克哉
(昭和42年卒)



この度、北海道教育功績者表彰の栄に

浴しました。功なく、あまりに過ぎた賞

の重さを汚しはせぬかと感っております。受賞式前夜、在札の夕陽の指導主事の皆様が祝いの宴を催してくださいました。会場にご案内頂き、驚きました。そこには川島会長様、藤川幹事長様がわざわざ駆けつけてくださったのです。また、在札の先輩諸氏、道の教育の明日を担う精鋭諸氏もお出でくださったのです。懐かしい同級の校長の熱い握手にも迎えられました。夕陽が心と体に赤々と染みてるかのようでした。幹事長様は、翌日の表彰式をも見守ってくださいました。卒業し、檜山に戻って三十八年。臂力弱

北海道教育功績者表彰

受賞の栄に浴して



伊達市 竹内 勲 (昭和43年卒)

この度因らずも、北海道教育功績者表彰受賞の栄に浴することができました。受賞に際しましては、川島会長様はじめ多くの同窓会員の皆様からご丁寧なるお祝いの言葉をいただき心から感謝を申し上げます。

例えば、室蘭市立大和小学校を振り出しに胆振管内八校、胆振教育局で二年間勤務させていただきました。何の取り柄もない鈍才の私を先輩諸兄が引き立て、悩みを共に語り合えた同僚に恵まれ、頼もしい後輩が温かく支えてくれたお陰でここまで来ることができました。

函館市文化賞

夕陽のころ



函館市 千葉 軒岳 (昭和34年卒)

大して努力もしないのに函館市から、文化賞を頂戴致しました。偏に夕陽会等関係各位のご温情によるものと深く感謝申し上げます。

檜山管内と函館市をちようど折り返すような形で、教員生活の半分ずつ務めさ

い己を投げ出しそうな時、途半ばで仆れた父を思い、職を全うしたいと背筋を伸ばすのでした。しかし、先輩の背は遙かに遠く、己を咎めたねばなりません。そんな時、前安島会長様や金山教育長様の檜山での指導を思い浮かべるのでした。夕陽に結ぶ思いが白熱する如くに去来するのです。汚すまい、幾代も受け継がれた夕陽の名をと。賞と夕陽の名の重さを胸に刻み、一層のご指導を頂き、精進をと心密かに誓うのです。

今、三十六年間の教員生活を終えようとしています。その節々で多くの同窓の方との出会いがあり、ご縁をいただきました。とりわけ最後の勤務校となりました伊達小学校での四年間は学校経営の楽しさを味わい、地域の学校として明日に生きる児童の育成に確かな手ごたえを感じることができました。先輩諸兄からいただきました数多のご厚情を次の後輩にいかにか伝えることができるか大きな課題と受け止めています。皆様のご厚情を大切に、これからの人生、なお精進して参りたいと考えています。

せて頂きました。檜山の頃は辛うじて会費を払うだけの会員でしたが、函館では、歴代の会長・幹事長のご厚意にあまえながら「創造し行動する夕陽会」の一員として、夕陽会旗や夕陽書道展の仕事に関わらせて頂き

ました。それぞれの仕事には、濃密な「絆」が形成されていく、そういう思いの中に身を置かせて頂いたことを、あらためまして、夕陽会員の皆様に御礼申し上げます。



身に余る受賞に感謝

札幌市 青柳 史 匡 (昭和42年卒)

札幌市教育委員会の表彰制度は、これまで教育の充実振興に功績を残した校長表彰と、それ以外の教職員表彰の二本立てとなっておりましたが、平成十四年から一本化され、職名や役職、年齢にとらわれることなく、より顕著な学校教育実践者を顕彰するとしています。

この度、因らずも教育実践功績者表彰をいただく栄誉に浴することになり、驚いております。二月十七日(木)に表彰式に臨みましたが、この賞の重さに改めて身が引き締まりました。また、この受賞は、私の退職という人生の節目の年とも重なり、いい知れぬ感動を噛みしめております。

それぞれの時代に、教育と文化を形成してきた夕陽会。「年々歳々人同じからず」、また新しい「絆」を求めて、愛しかな夕陽、遼々たるかな夕陽。



試行錯誤

函館市 鈴木 秀明 (昭和46年卒)

漫然と過ごしては次第に心の中に権威主義が台頭し、時間が経過しても進歩は望めないでしょう。このことに気付いてから、色々なことに挑戦することで緊張と新鮮さを失わないように心掛けてきました。

学校が子供たちの多様なイメージの生成の場として、その声に答えるため、学級での合唱や児童美術で心を込めて表現することを始めました。色々な試行錯誤

受賞できましたのは、これまでの職場でのご指導・ご鞭撻をいただいた諸先輩や同僚、後輩など多くの方々との出会いと支えがあったからです。回想する度に感謝の気持ちで一杯になっています。受賞の報が流れるやいなや、川島会長様や中瀬副会長様をはじめ、札幌支部や全道各地の夕陽会の仲間から心温まる祝言・祝詞をたくさんいただきました。感激の至りです。私の受賞が夕陽会札幌支部の活動や後に続く後輩に活力を与えることになるとするならば、この上ない喜びでもあります。皆様、ありがとうございます。(札幌市立柏中学校長)

を積み重ね、豊かな自分作りの援助をしてきましたが、私自身も、それまでは気が付かなかった美への感覚を実感できたのは幸でした。この度の教育実践表彰は、これまでの勤務校の自由で闊達な環境のお陰で頂いたものと感謝しております。これを一つの節目として、今後も、夕陽会の皆様のご指導のもと、誠心誠意努めて参りたいと思います。

同期会だより



二期会の終会

代表幹事 遊佐悦大
(昭和29年卒)

〈遂にその時が〉

昭和二十五年に、「北海道第二師範学校」から「北海道学芸大学函館分校」と呼称が変更された学び舎に入学したのは、学制改革制度では二年目になるので、我々卒業年次の同期会は、「二期会」と言う名称で呼ばれている(この名称は、菅原昭一君の提案だったと記憶)。

旧制の師範学校時代と違い、寮生活で寝食を共にしたわけでもなく、学び舎でも研究室単位となると、同期の友と言っても親密な人間関係がつけられるのには、相応の時が必要な筈だったが、早くにゲーテの言う「不思議な親和力」が芽生えたのは、キャンパスの狭隘や学生数が少なかったこと、講義の選択幅が乏しかったこと、更に将来の目標が共通していた為と思われる。

若さは学友と親交を結ぶのに、さ程の時を必要としない特技ももっているものだ。研究室対抗のスポーツ大会では、カリント一罐をゲットする優勝を目指し、哲学研究室のように学生一人というところでは、英語から助っ人として、ちゃっかりメンバー登録される鷹揚さがあったのも面白い。

こんな想い出が、研究室の壁を超えて、互いに今でも友情が続いている事情の一

つになつていようだ。同期には秀才の誉れ高い上野茂樹君をはじめとして、東大合格確実の実力をもった優秀な人材や、まことに個性溢れた人材が綺羅星のように群れていたのには感激だった。

あれから五十年の歳月は、停まることもなく時を刻み続け、ふと我にかえったら、学友の三分の一が彼岸に、「魂の移転」を終えた現実に、肅然とした思いに直面させられるものだ。

〈疾風怒涛の時代の懐古〉

記念すべき「二期会」発会の席で、青年教師の雛として、社会人への通過儀礼として、それ迄付き合ったこともない酒なる液体を口にした途端、こやつは、無人の荒野を疾駆する悍馬のように暴れるのだが、これは触れぬがスマートというものだろう。

再会と健闘を誓い合った後、強風に吹かれた木の葉のように、運命の風に吹かれるまま、教職生活第一歩を踏み出すべく、熱い思いと不安を伴い、散って行つた日の想い出は、忘れがたいものだ。いつの日にか学友のために力になれる自分をほがしい、人生のすべてを教壇と黒板を伴侶とする生活に注ぎ尽くして、半世紀の時を過ごし、二期会は平成十六年十月十三日に閉会したのであった。

青春時代は、個人の責任に由来する条件で営まれることは、多くはないと思うのだが、国家も社会も、狂奔する世界史の舞台の上で翻弄され、その恣意のままという現実の上に、敗戦というドラスティックな付加まで背負つての時代は、万言を費やしても、当事者以外には(同一円周上の周辺人には理解がえられようが)理解は難しかろう。現代史の歴史事項に不可避の、戦後日本の、国際社会における位置取りに、講和問題があり、単独か全面かで世論が沸騰し、加えて朝鮮動乱という、隣国での民族同士の悲劇的な対決の是非を友と論じ、時間になれば家庭教師に駆け付けるという慌ただしい生活は、等しく皆に共通する日々であった。

〈燃え盛えよ、炎〉

情熱は青春時代に劣らず持続しているという友も多いが、加齢現象で、志とは正反対に肉体の牢獄(プラトン)に縛られて無念の思いと葛藤している友もいるのだ。半世紀の間、盛大に毎年開催されてきた二期会ではあったが、熱い思いは滾っていても、配偶者の世話を欠かせない友あり、咄嗟の反射神経の衰えを自覚させられ、外出を自粛している友ありの現実から、終会の決定となった。意気軒昂な同期の中には、未だ教壇に立ちつつ、世界の名門コロンビア大学の依頼で、博士論文の審査をつとめる理学博士の村元直人君、実業の最前線の国際舞台で活躍中の岡部博信君、函館師範伝統の蹴球部魂を体し、今もシニアサッカー大会に出場している小山昌吾君等の活躍ぶりは同期の誇りでもある。

人生には個人差という現実はあるのだが、しかし情熱の炎の火勢に翳りがあつては口惜しい。「永劫回帰」とまでいか

なくとも、せめて「生命よ、再び与えられるならば受けて立とうじゃないか」との気概は維持し続けたいものだ。卒業以来、二十一名の友と永遠の別離はしたが、今なお四十名の友の存在は心強い限りだ。禅語には四字熟語で含蓄に富んだ言葉が沢山あるが、「脚下照顧」などは、押しつけがましきのないスマートさがある。同じ禅語で茶室に見かける「一期一会」という言葉の延長に「二期一会」と言えば、戯言が過ぎると叱られそうだが、同期の絆は再会を祈り願うマグマとして、火勢に衰えはない。母校の発展、夕陽会員のご自愛に加え、「二期会」の栄光の光芒が未永く消えざらんことを緒に祈り続けたい。感謝の思いを込めて。



北海道学芸大学函館分校 二期会 平成16年10月13日 於：ホテル法華クラブ函館



楽友同窓会 会報「楽友」復刊三〇号

三〇年継続発行を支えた組織力

中島 眞之

(昭和39年卒)



毎年一月中旬になると音楽科楽友同窓会・会報「楽友」が送られてくる。

会報「楽友」は、全国津々浦々住所が判明している会員全員に送られている。

昨年一二月一三日、会報「楽友」復刊第三〇号が送られてきた。

年一回発行の会報が復刊して三〇号。すでに三〇年の年月が経っている。

事務局をはじめ担当幹事のご苦労は大変なものである。

平成一六年一二月一日付、最新版の会員名簿が発行された。会員数は七九〇余名に及んでいる。過去三〇年かけて毎年夏に幹事や各期代表者による会員名簿の整理と発行がなされている。パソコンにて名簿は管理されているが、退職者・住所変更・勤務校や勤務地変更の追跡調査は大変な苦労である。

ここ数年、各期の欄に氏名のみ空欄が目立つ。他界された会員、住所不明の会員は一二〇余名に及ぶ。かつてお世話になった先輩や音楽活動を共にした仲間、氏名を目にする度に心が痛む。

会報「楽友」三〇号掲載内容

「同窓の絆は固く」と題して、楽友同窓会長木村映之氏（昭和42年卒・木古内中長）のご挨拶が載っている。

その内容は、〓教育大学の改革案が示され、音楽科もその根拠地を岩見沢に移すことになり、「楽友同窓会」もその将来の図がなかなか見えない状況にある。しかし、今まで母校を巣立った多くの同窓生が全国各地で活躍していることは事実であり、同窓の絆を確認しつつ活動を続けることが大切である〓と結んでいる。

“大切な故郷、そして、大切な誇り”

と題して、横山眞昭氏（昭和44年卒・札幌山鼻中長・北音教会長）が寄稿。

楽友同窓会大先輩であり恩師でもある寺中哲二先生との出会いと教職への憧れ。「組織は人なり 人は和なり 和は心なり」の言葉を引用し、多くの先輩諸氏が大切にし、創り上げてきた組織の歴史と伝統を引き継ぐことの必要性や後輩を生かし、組織を支える後継者として育成していくことの責任などに触れられている。

若者を代表して……「音楽科を卒業してから私の私」と題して、類家聖月氏（平成15年卒・伊達小）が寄稿。

手探りの状態での一年目の苦労。かわいい一年生との「生活科ってなに？」の取り組みや飽きずに学習意欲を持続させることの難しさ等々。また、困った時に

は大学で学んだことを思い浮かべながら奮闘している様子が記されている。

会報の後半は、在校生の*「音楽教室第四九回定期演奏会」一二月一八日・芸術ホール。後輩の活躍の様子をぜひ鑑賞していただき激励のお願い」と案内。

*「楽友同窓会総会・懇親会のご案内」平成一七年一月六日（木）総会・午後五時三〇分函館ハーバービューホテル。

*「第八回 夕陽音楽会のご案内」平成一七年一月一六日 函館芸術ホールその他 *「会費納入のお願い」と「お知らせ」、「楽友会同窓会名簿」、*「第八回夕陽音楽会混声合唱団の立ち上げと団員募集のお知らせ」などである。

「楽友同窓会総会・懇親会」について毎年、新年早々の一月六日開催と決まっている。今年は、函館ハーバービューホテルで開催された。

役員の改選期であり、木村会長の三月ご退職と重なり新役員が選出された。木村会長の推薦により穴戸雄一氏（47年卒）が新会長に就任する。副会長には、吉田清三氏（46年卒）、伴 明氏（48年卒）、長谷川吉秀氏（47年卒）、玉手道男氏（48年卒）の四氏。

監査には、福岡 功氏（45年卒）、大森武治氏（49年卒）が就任する。幹事長には、西谷さおり氏（45年卒）が留任、さらに常任幹事が選出される。懇親会は、例年より参加者が少なめであったが二四名が参加し、久しぶりの再会で楽しくにぎやかに盛り上がる。

「第八回 夕陽音楽会」について音楽会の感想はこの紙面では除く。

夕陽音楽会は、夕陽会本部文化部が担当し、文化部長大川富美男氏をトップに木村実行委員長以下楽友同窓会がその総力を挙げて取り組む事業のひとつである。

会場の確保、出演交渉、プログラム構成、リハーサル、本番、そして、事務処理、会計処理等々。また、夕陽音楽会混声合唱団の立ち上げもあり実行委員会の仕事と合唱団員としての参加練習と、その精力的な行動は、まさに楽友魂……（夕陽魂……）を見る思いだった。

四年に一度の音楽会ではあるが、楽友同窓会員の絆を強め、力量発揮の大事な事業・活動と押さえている。

毎年恒例となっている行事の中に、楽友同窓会「新入会員歓迎会」がある。

大学卒業前の三月中旬、卒業生である新会員や教育実習で指導された先生方、同窓会員が集う楽しい歓迎会である。

因みに、学生は〓招待である。しかし、新会員としての年会費千円は当日きちんと納めていただいている。此のシステムが、強い絆を保ち、会員を正確に掌握し組織を拡大している要因と考える。

いずれにしても、幹事会と事務局が連携協力して組織を機能させながら会を運営していることが、この様に絆を固め組織拡大を図れたことと考える。

先輩達・事務局の知恵と努力に脱帽！

今後、音楽科の根拠地が岩見沢に移され、楽友同窓会新会員の入会が途絶えた後が大きな課題である。これだけ強い絆で結ばれた楽友同窓会……暫し緩やかな流れとなるが、また、時流にそった新しい流れで絆を固めたいと思う。その期待を先輩に託して……。



第八回夕陽音楽会終了 函館市民に感動を与えた演奏会

実行委員長 木村 映之

(昭和42年卒 木古内町立木古内中学校長)

日時 平成一十七年一月一六日(日)
会場 函館市芸術ホール

四年ぶりに夕陽音楽会が開催された。当日は必ずしも恵まれた天候ではなかったが、会場は六〇〇名を超える同窓生、市民で埋まった。プログラムは今回も、会員や会員が主催する団体、会員とその教え子による演奏と、バラエティーに富んだものとなった。オープニングは恒例の、夕陽混声合唱団による函館師範学校校歌と夕陽讃歌が始まった。続いてのサウンド・オブ・ミュージックからの曲も、練習回数少なさを感ぜさせないプロの演奏であった。指揮田村順子(S44卒)とピアノ三上育子(H7卒)の女性コンビによる、息の合った女性らしい繊細な音楽性を発揮した演奏であった。

木村映之(S42卒)のバリトン独唱はシューベルトの有名な歌曲を敢えて日本語で演奏するという企画であった。特にピアノの後町久子(武蔵野音大卒)の「魔王」の演奏技術に敬意を表したい。

羽賀孝子(S56卒)のピアノ独奏はアルベニス、グラナドスというスペイン物の演奏で、彼女の資質に合った好演。

テノール独唱の大村義美(S44卒)は手馴れたイタリアの歌を三曲。張りのある美声で、ピアノの奥様(陽子さん)との息の合った演奏であった。

アンサンブル・モジエは明戸・小寺・桜庭・星野・三上・安福・渡辺(教育大卒)・井上・畑中・堀川による女声アン



サンブルで、松下耕作曲「ラヴェレージナ チェロールド」と信長貴富作曲「童歌メドレー」を女声特有の繊細な響きで、芳しい雰囲気を出していた。

指揮山崎輝美(S62卒)ピアノ加茂有希子(H8卒)による函館市立南本通小学校合唱部の演奏では、ブラックライト劇「はらぺこあおむし」が視覚にもうったえる斬新な演奏であった。吉田美和作曲「未来を旅するハーマニー」鈴木憲夫作曲「こころのてんきよほう」も素直な表現と透明なハーマニーを聞かせた。

指揮櫻井佳子(H1卒) 函館市立千代田小学校リコーダークラブの演奏。チャールトン作曲「アイディールワイルド組曲」も、グレートバスまでを使用した合奏で、指揮者の意図を的確に表現した児童の高度な演奏技術が圧巻だった。上磯中学校吹奏楽部による金管八重奏

はラングフォード作曲「ロンドンの小景より」を演奏したが、指揮南順司(H3卒)の日常の一貫した指導が窺い知れる心地よい演奏であった。

最後の七飯中学校吹奏楽部による演奏は、ツェラー作曲喜歌劇「小鳥売り」より、Der Vogelhandlerと、真島俊夫編曲「カーペンターズフォーエバー」。指揮高久健一(H4卒)はいつもながら聞き手に安心感を与える輝かしい響きの演奏であった。今回の出場団体では南本通小、千代田小、上磯中、七飯中は最近の各種コンクールで常に上位入賞を果たしており、全道大会への出場常連校でもある。このようにベテランから若手まで多くの夕陽会員が一つの音楽会に参加し、聴衆に感動を与える事が出来たのも、日頃より研鑽を怠らない出演者諸氏の努力のお蔭と深く感謝します。

また今回の音楽会開催のためにご尽力頂いた夕陽会本部役員各位、更には楽友同窓会実行委員各位のご協力に衷心より御礼申し上げます。



書籍出版のお知らせ

同窓の大坂四郎氏(昭和33年卒)が、次の本を出版されました。お祝いを申し上げますとともに、ご紹介いたします。なお、夕陽記念館に収蔵いたしますので、ぜひご覧ください。

フ로그レッシブ イングリッシュ
グラマー セミナー

英潮社

※英検二級程度の英文法テキストで、基礎基本を重視し、変化に富んだ問題で構成されています。

平成十七年度

北海道教育大学夕陽会

総会・懇親会のご案内

◆日時 平成十七年六月十八日(土)

〈総 会〉十六時より

〈大懇親会〉十七時三〇分より

◆会場 函館国際ホテル

「函館市大手町五番十号」

「〇一三八(二三)五一五一」

全会員の皆様の参加をお待ちしております。参加を希望される方は、次の方法によりお申し込みください。

◎各支部に所属する会員については、各支部毎に取りまとめる所定の手続きによりお申し込みください。

◎各支部に所属しない会員、および前納会員につきましては、直接本部へお申し込みください。

詳しいことのお問い合わせは、本部(附属小学校)へお願いします。



教え子「高見盛」を語る 2

奇跡を遥かに通り越して

高橋 宏彰

(昭和59年卒 金木町立金木小学校)

それでも彼は、六年生の時に団体戦で全国大会出場を果たし、相撲での思い出と勲章を手にして小学校を巣立っていった。それと同時に私も管内最北の小泊小学校へ転勤することになった。

そんな事情で、中学校時代の彼とは一、二度しか会っていない。桜祭りに催される相撲大会に我が学級の児童を応援に行くと、前任校である板柳北小の子ども達も私の回りに群がってきた。中学生になった彼はさすがに自分からは近づいてはこ

なかつたが、相変わらず仲間の取り組みを見るでもなく、他の部員とも交わらず、自分の世界の中に入り込み暇を持て余しているように見えた。声をかけると嬉しそうに例のたどたどしい語りながら何だかんだと堰を切ったように話してくれた。

その後、私は彼の同級生だった連中に乞われて中学の文化祭バンドにギターを教えに行っていたので、彼らの情報もリアルタイムに入っていた。一つ年上の齊藤(追風海)が板柳中学校の番長格で、

中途半端に突っ張っていたバンドの連中は廊下ですれ違うだけでも怖くて膝が震えたとか、彼(高見盛)がダンス甲子園に触発されて、誰もいない渡り廊下でバネが効かなくなつた人形のように踊っていたとか、またその事でしつこく彼を冷やかしたら恥ずかしさのあまり顔を真っ赤にして逆上したとか、曲の練習の合間に涙がちよよぎれるくらい笑った。蛇足ながら、その時のメンバーの一人は今

でも東京で本格的な活動を続けていて、インディーズながら二枚のCDをリリースしている。

さて、ここからが表題に迫る部分であり『わらしべ長者』の話よりもあまりにも出来すぎた実話を、私の記憶と実際の記録を織り交ぜて紹介したいと思う。

小泊小での三年目、当時の校長が地元紙を見ながら「中学横綱を加藤が取ったが。」とぼそつと言ったのを聞いて私は、「えっ！板中の加藤ですか?」と思わず聞き返したところ、「んだ！加藤セイヒコ?何て読むんだべ。」やり取りは長閑だった、思わぬビックニュースに身震いした。まさかノ信じられなかつたがどうも本当らしい。何かしなければと思いつつも祝福のタイミングを逃していた私は年賀状を出すことにした。『日本一おめでとう。三國志クリアしました。』と加筆して投函した。私がゲームの事を書いたばかりに、届いた返事には、相変わらずの閉口してしまうような読みにくい文字で、彼のゲームのクリア歴がこれでもかこれでもかと並んでいた。

後日談になってしまいが、青森県では無敵を誇っていた古川(若の里)がケガで全国中学校相撲選手権大会の県予選には参加できなかったとの事。それにしても優勝候補が不出場とはいえ相撲王国青森県予選を勝ち抜いただけでまず奇跡だなと思う。さらに一発勝負の全国大会でも、竹内(雅山)や田宮(琴光喜)らも

破ったというのだから恐れ入る。

その中学横綱だけが認められて相撲の名門高である弘前実業高校へ彼は進学した。弘実はその頃二年連続で夏の甲子園に駒を進めていた。その時のエースと四番の子の二人が板柳北小出身で私が直接野球を教えた子だったので、そっちの方に私の意識は向いていて、正直彼のこと

は半分以上忘れていた。これも後日談になるが、その頃一人前に片思いの女の子がいて、遠征の度にその子といつも一緒にいた友達の子に必ずおみやげを買ってきたそうである。どうも今でも淡い思いを抱き続けている節が見られるのだが……。

そんな訳で『国体個人優勝加藤精彦(弘実)』の紙面が私の目に飛び込んできたのも突然の出来事だった。またかノ三年前の奇跡が再び起こってしまった事に得体の知れない何かを感じずにはいられなかつた。弘実相撲部の一つ先輩に對馬(岩木山)がいたとか、夏の高校総体では志賀(栃東)に準決勝で負けて三位止まり(これでも十分に奇跡)だったとか、その頃の私には知る由もない。

その国体優勝だけが認められて相撲の名門大学である日本大学へ彼は進学した。ちよどここの頃、彼の長兄が近くの小学校に新採用の教師として赴任してきたため、学生時代のエピソードはリアルタイムで聞くことが出来た。練習が厳しくて今自宅に逃げ帰ってきているとか、両親も百姓を継がせるしかないだろうと諦めているとか、まあ現実ってそんなものだよねと感じていたことは記憶に新しい。

ところがである。地元紙がスポーツ欄のトップで報じた大きな写真付の『アマ横綱加藤(日大)』の記事が目飛び込んできた時は、驚愕を超えてしまった。

鳴かず飛ばずだったはずなのに、またしても土壇場で大仕事をやってのけてしまった。前号に登場した彼の小学校時代の相撲部の監督に執拗に誘われ『加藤精彦君の天皇杯獲得を祝う会』に最後まで迷いながら参加することにした。結婚式の披露宴しながらの会場に入場してきた約十年ぶりの彼は、スポーツ刈りの頭に大きな黒縁の眼鏡をかけ制服だろうブレザー姿で、一人高い主賓席に通された。私の周囲は知らない方だけで、やっぱり来なければ良かったなと後悔しながら、長々と続く町の重鎮の方々の挨拶を聞き流していた。乾杯が済んで徐々に空気が和み始めた頃、天皇杯の大会のビデオが大画面で放映され会場の盛り上がりは最高潮に達した。優勝した瞬間に思わず見せた雄叫びや格好の悪いガッツポーズなど小学校時代の彼の姿を彷彿させた。

主催者に促されるまま彼は会場の一人一人に酒を注いで歩き、とうとう私の所までやってきた。その時いきなり彼が、「高橋先生、今の自分があるのはすべて先生のおかげです。本当にありがとうございます。」なんて言い出すものだから、こちらも不意を衝かれて胸が一杯になってしまい、どうも参ってしまった。

宴が進み誰もが地味な主役の事など忘れ始めた頃、遅れてきた教え子数人が私の所に集まってきてミニクラス会のようなノリになって大いに盛り上がった。それを一人上から羨ましそうに眺めていた彼は我慢できずにその輪の中に入ってきた。さっきの殊勝な姿はもうそこにはなく、どんな手を使って大学の単位を取ったんだという意地悪な私の質問に、しどろもどろに弁解する昔と変わらない彼がそこにいた。(もう一回だけ続く)

第八回 夕陽音楽会に寄せて

北二師2回生 八木 幸夫
(昭和19年卒)

新春を飾るにふさわしい内容の夕陽音楽会が、さる一月十六日函館市芸術ホールで開かれた。

開幕は、夕陽混声合唱団による昔懐かしい「恵山の朝日に……」で始まる函館師範学校校歌、そして夕陽会創立八十周年を記念し制作された「夕陽讃歌」の歌声が響いた。今回の合唱団は男性女性共に参加者が多く、声量豊かでハーモニーも美しく会場を埋めた多くの聴衆に大きな感動を与えた。

四年に一度開催されるこの夕陽音楽会の発足時、企画・運営を担当した私にとり八回目を迎えた今年のハイレベルの演奏内容にはまことに感慨深いものがあつた。

昭和五十年、当時の高杉留七会長（故人）が「行動する夕陽会」を標榜し組織強化を図られる中で、現在の文化部が誕生したのである。

たまたま翌年、全道音楽教育研究大会が函館で開催され大会の研究演奏を担当した夕陽会員の活躍が目覚ましかったことから、会員だけの音楽会をぜひ開いてはどうかの機運が盛り上がり、早速「行動する夕陽会」の一環として文化部が企画し五十二年、記念すべき第一回夕陽音楽会が市民会館で開催されたのである。

反響は大きく約八百五十名の来場者があり、会場は先輩・後輩の交流の場ともなり、和やかな雰囲気の中で開幕した。ステージでは、札幌で歌手として活躍中

の佐藤金一氏（昭和33年卒）の熱唱を始め、主として道南の音楽教師による独唱・独奏などがプログラムの中心となっていた。

終了後、まずまずの成功であったが同窓会の名にふさわしいものにする為、クラシックだけにとられず、夕陽会の歴史を音楽や演劇で表現してみてもどうかの意見が寄せられた。

このことから、演劇関係者の協力を得て、夕陽会の歩みを戦前（第二回）と戦後（第三回）に分けて発表したこともあった。また、第四回では会員の親睦を一層図る目的で、日頃鍛えた歌声を披露してもらおうという発想で一般会員にもステージを開放した為、会場は大いに沸いたことを覚えていいる。

しかし、その後母校大学の音楽科同窓組織の「楽友会」のメンバーも充実し、会員指導の団体の出演も可能になり、原点に戻りクラシック中心の多彩なプログラムの夕陽音楽会が実現し回を重ねてきたのである。今回のプログラムでも前半で個人、後半はグループそして会員指導による合唱・合奏・重奏や吹奏楽が組まれていた。

ところで、クラシック音楽会では通常演奏に集中させることから、挨拶等はなるべく避け開会チャイムだけで進行するのが普通であるが、この度は会場に会員以外の市民も多く来場しており、会長または部長から挨拶の中で、ユニークな同

窓会主催の音楽会の趣旨等を話されてもよかったのではと感じた。

いま一つは、進行上の制約もあるが、出演者についてプログラムにプロフィールが載っていたが、司会者から要点のみでも紹介してほしかったし、特に影絵を生かしての合唱やリコーダ合奏、吹奏楽でのステージ上の児童・生徒に対し、発表後称賛、感謝の言葉をかけてほしかった。この一言が一層の励みとなり、また来場の父母に対しては夕陽会員としての指導者への信頼感がより深まるのではと、この点で若干残念に思ったものである。なにはともあれ、今回の企画・推進の中心となった「楽友会」の会員のご苦勞に心より感謝しお礼を申し上げると共に、ますます会が充実し発展されますことを祈念しております。

会務報告



幹事長
藤川 隆
(昭和48年卒)

12・7 《一般会務》 第二回本部役員会を開催（函館）
大学改革に関して奥田副学長が講話

10 札幌市支部教育懇談会に川島会長が出席
1 夕陽会報第184号発行（札幌）
2 16 夕陽会報第185号発行（函館）
2 22 第八回夕陽音楽会を開催（函館）
3 第三回本部役員会を開催（函館）
12・3 《支部総会・祝賀会・個展等》
室蘭市支部総会に川島会長が出席（東室蘭）
六枝会渡島函館支部懇親会に藤川幹事長が出席（函館）
東京支部総会に川島会長が出席（東京）

4 昭和34年卒同期会に祝意（函館）
北海道教育功績者表彰受賞祝賀会に川島会長・藤川幹事長が出席（札幌）
1 4 特殊教育支部総会に川島会長が出席

平成十六年度 研究助成報告
今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせいたします。（研修部長 武田 隆雄）

札幌支部管理職会員研修会
札幌支部全体研修会
石狩支部全体研修会
小樽支部夏季研修会
十勝支部夏季研修会
十勝支部夏季研修会
網走連合支部教育講演会
空知連合支部教育講演会
第二十五回北海道国際理解教育研究大会
大谷川路大会
附属函館幼稚園公開研究会
附属函館小学校教育研究大会
附属函館中学校教育研究大会
附属函館高等学校教育研究大会
知内町立知内中学校教育実践発表会
上磯町立上磯小学校教育実践発表会
南茅部町立南茅部小学校公開研究会
大野町立大野小学校公開研究会
七飯町立七飯小学校公開研究会
七飯町立七飯中学校公開研究会
十勝管内特殊教育研究大会
更別村立更別小学校公開研究会

10 出席 昭和35年卒同期会に川島会長が出席（札幌）
12 出席 高等学校支部総会に川島会長が出席（札幌）
22 17 音楽科「楽友会」同窓会に祝意（函館）
12 第八回夕陽音楽会慰労・反省会に川島会長・藤川幹事長が出席（函館）
29 胆振連合支部懇親会に川島会長が出席（東室蘭）
網走連合支部総会に藤川幹事長が出席（留辺岬）
後志支部臨時総会に須藤副幹事長が出席（余市）
磯部正博氏（昭和32年卒）受賞祝賀会に尾島副会長が出席（函館）
日高支部総会に藤川幹事長が出席（静内）
14 函館市支部顧問会議に川島会長が出席（函館）
18 出席 苫小牧市支部勇退者激励会に川島会長が出席（苫小牧）
19 出席 渡島支部支部会・幹事長会議に川島会長が出席（函館）
25 出席 渡島支部支部会・幹事長会議に川島会長が出席（函館）
出席 川島会長が出席（函館）
出席 榎山支部総会に藤川幹事長が出席（江差）
出席 函館市支部受賞祝賀会に川島会長が出席（函館）

支部の歴史をふりかえって

土地墾闢人民蕃殖の旗をみちのくに

―岩手支部二十年の足跡―



岩手支部前支部長 及川 悌三郎

一、岩手支部設立の事情

岩手支部は昭和五十九年の発足である。昭和五十八年二月数田幸作先生から岩手支部を作ってほしいとの長文の手紙が届いた。次いで瀬川直光先生と笹浪幹雄先生から正式な依頼があり百名余の名簿と資料が送られた。県内にこれ程の同窓生がいるとは驚きだった。

早速岩手大附属小学校での同僚山崎徳吉先生と同僚の娘さんの晴山よし子先生と三人で発起人となり、大先輩の鈴木透先生と富樫宏先生に相談して支部設立準備会を組織した。又設立可否のアンケート調査も実施し準備会で立案して、昭和五十九年十月六日午後三時盛岡市自治会館において岩手支部設立総会を開催した。二、支部設立総会

当日は会員二十三名の出席で夕陽会本部から会長瀬川直光先生が出席され力強い祝辞を頂いた。村木和世先生の議長で議事は異議なく進行して終了、ここに夕陽会岩手支部が誕生した。

直ちに懇親会となり、遠く母校を離れ親しい同期や同窓のいない心情が語られこの会の成立を喜び合った。今後絆を強くし母校で鍛えた開拓精神を発揮して、岩手の教育に頑張つて行こうと大いに盛り上がり、校歌寮歌を合唱し再会を期して八時過ぎ散会した。

三、支部の事業

母校や夕陽会本部から遠く道外にいる会員の支えになる会にしたいと考えた。

- 1、夕陽会本部との繋がりを深くする
- 2、会員の親睦交流と研修、臨探の解消
- 3、僻地校勤務会員の激励
- 4、会員の連繫、支部通信会報の発行
- 5、集会の地域ローテーション開催

○通常総会と研修を併せて行うー開催地域に関わる講演や発表見学観光
○会員の懇親交流ー家族同伴歓迎
○地域の教育関係者との懇談

四、支部の集会

- 第1回 昭59・10・6 設立総会 略
- 第2回 昭60・11・23 盛岡共済会館 出席本部小林信夫幹事長、会員16名
- 第3回 昭61・11・15 盛岡一心亭 瀬川直光会長、会員12名 講演「前沢町の切支丹」鈴木透(昭5卒)

- 第4回 花巻集会 昭和62・10・7・8 松倉温泉 阿部明監査、会員29名岩手の風土と文学「舟越芳男(昭18卒)」、高村光太郎記念館、宮澤賢治記念館見学
- 第5回 水沢集会 昭63・11・12・13 翠明荘 瀬川直光会長、函館校名譽教授瀬川秀良先生、会員20名「内地留学の体験」山口道明(昭57卒)、三偉人記念館

- 第6回 宮古集会 平成・11・11・12 宮古国民休暇村 新谷健治監査、瀬川秀良先生、教育事務所長佐々木寅夫氏 会員23名「現代教育の諸問題」高階玲治(昭32卒)、水産博物館、浄土ヶ浜観光船
- 第7回 雫石集会 平2・11・17・18 富士見ハイツ 瀬川直光会長、瀬川秀良先生、会員18名「夕陽会本部総会に参加して」国際交流基金の推進鈴木透(昭5卒)、盛岡手作り村、小岩井農場

- 第8回 西磐井集会 平3・11・9・10 衣川荘 阿部明監査、会員18名「私の生きがい」退職後どう生きるか村木和世(昭15卒)、平泉金色堂、厳美溪他
- 第9回 二戸集会 平4・11・7・8 安代町とびや温泉 瀬川直光会長、瀬川秀良先生、会員14名「浄法寺街道あれこれ」浄法寺町文化係長中村裕氏、天台寺参詣、浄法寺資料館、漆器展示館

- 第10回 釜石集会 平5・11・27・28 花の井ホテル 瀬川直光会長、会員12名「大槌釜石鉄の事」工藤茂(昭53卒) 工藤正彦(昭57卒)、釜石鉄の博物館、釜石観音
- 第11回 支部設立十周年盛岡集会 平6・11・26 サンセール盛岡 瀬川直光顧問、会員25名「自然地理学から見た北海道西部の自然環境」奥尻島の場合、理学博士瀬川秀良先生

- 第12回 大船渡集会 平7・11・25・26 海楽荘 会員17名家族同伴「地域と学校教育」金澤道子(昭50卒)、大船渡博物館、弘前高田「貝のミュージアム」
- 第13回 北上集会 平8・11・23・24 ワシントンホテル 会員21名家族同伴「北上の史跡と観光」平野憲(昭55卒)、小原茂(昭56卒)、北上詩歌文学館、宮澤賢治記念館

- ※並行して本部主催本州幹事長会議開催
- 第14回 久慈集会 平9・12・6・7 新山根温泉 会員13名家族同伴「野田

- 塩ベコノ道」外島真一(昭55卒)、久慈琥珀博物館
- 第15回 東磐井集会 平10・11・28 国民休暇村気仙沼大島 会員13名「東磐井の史跡と観光」高橋澄夫(昭56卒)、唐桑半島巡り(フェリー乗船)

- 第16回 遠野集会 平11・11・13・14 民宿りんどう 瀬川秀良先生、会員13名「遠野物語秘話」遠野物語研究所佐藤誠輔氏、遠野昔話村、伝承館他、瀬川秀良先生の叙勲祝賀会を行う
- 第17回 江刺集会 平12・11・18・19 ホテルニュー江刺 安島進会長、会員18名「江刺の文化と子供達」江刺郷土文化館長朝倉薫氏、文化館、藤原の里

- 第18回 花巻集会 平13・12・1・2 新鉛温泉 松本征八幹事長、会員22名「宮澤賢治と植物」賢治研究家藤原義孝氏、花巻民俗資料館、高村光太郎記念館
- 第19回 宮古集会 平14・11・23・24 浄土ヶ浜パークホテル 安島進会長、宮古市教育長中屋定基氏、会員26名家族同伴「縄文の風発信」文化財調査員高橋憲太郎氏、水産科学館、崎山貝塚公園

- 第20回 一関集会 平15・11・29・30 厳美いつくし園 藤川隆幹事長、会員21名家族同伴「毛越寺延年の舞と私」
- 寿徳院住職南洞瀬賢師、平泉毛越寺他
- 第21回 支部設立二十周年函館集会 平16・7・31・8・1 湯の川温泉万惣川島孝夫会長、藤川隆幹事長、瀬川直光顧問、松本征八前幹事長、会員22名家族同伴「大学改革と母校の将来」安島進顧問、母校訪問夕陽記念館

- 五、むすび
- 函館集會により役員の改選と組織の強化事業の充実を図り、今後の発展の体制を整えた。二十年の歴史をふまえ更なる発展を期したい。



夕陽とこしえに

十勝支部長 田 中 信 宏

(昭和43年卒 土幌町立土幌町中央中学校長)

「幾山河 越えさりゆかば 寂しきはてなむ国ぞ けふも旅ゆく」と若山牧水に詠まれた十勝平野にも、やっと春の息吹が感じられる頃となりました。春を待つ気持ちとは裏腹に、管内では今春八校が閉校します。時代の流れとは言え何とも寂しい限りです。

十勝支部は中心標榜に、「出会いを求め 同窓の密度を高めよう 出会いなくして 組織の力は高まらない それは二人だけの……邂逅の価値を高めることとなる」を掲げ、十勝郡部十九ヶ町村の会員を中心とし、巴湾会という名称で組織しております。現在会員は九十六名、うち管理職会員二十四名、新卒会員四名、OB会員五十九名を擁しております。年々会員数は減少しておりますが、本部より、新卒会員を毎年送って頂いており、感謝しているところです。

今年度の運営方針は、「本会の中心標榜の趣旨を生かし、人間味ある仲間づくりを基調にし、連帯意識を高める活動の進展を図る」ことを重点として、会員の組織化を図ること、各部会の活発化、会費納入の促進、を活動の三本柱に据えて取り組んできました。当支部の財産には、先輩各位から受け継ぎ、発行し続けてきた広報誌「かけはし」があります。既に二一八号を数え、年四回程度の発行回数

で数えると、五十年以上にわたって会員相互間の、文字通り「かけはし」となってきました。これはOB会員にも郵送されており、現職会員とOB会員とを繋ぐ「かけはし」ともなつて非常に喜ばれております。また、会費納入の促進を図る意味でも、管内五方面の交流会は大事にしております。会からは必ず役員を派遣し、OB会員にも参加を呼びかけています。

大谷宣征氏(昭和40年度卒)が、昨年十二月に浦幌町教育委員会教育長に就任されるという慶事がありました。二月には、大先輩池田茂市氏(昭和4年卒)が九十七歳で永眠という弔事もありました。また、十勝管内教育実践表彰校として、更別小学校が受賞しましたが、更別小学校は菅忠良校長(昭和43年卒)のもので、長年にわたり自主公開研を重ねたことが認められたものです。三月には、イスタンブール日本人学校長の徳成達廣氏が帰国します。

春の総会では、本部から会長に出席を願い、母校の将来について詳しく聞くことができそうですが、現職会員からは、母校の前途を憂う声ばかりが聞こえてきます。「夕陽とこしえに」、道東から母校の発展を願い、十勝の近況を伝え支部便りとなります。



室蘭支部便り

室蘭支部幹事長 水 谷 裕 司

(昭和43年卒 室蘭市立知利別小学校長)

胆振管内においても、少子化に伴う学級数の減少や学校の統廃合等により教員採用枠は大きく減り、現職会員数は年々減少しています。特に、新採用教員の激減と組織を支えてこられた会員の定年退職者増が大きいです。かつては、会員が二五〇名を超えた室蘭支部も、現在、現職会員八六名、継続会員九四名、OB会員二六名と減少しております。多少の課題を抱えながらも、退職会員の方々のご支援と現職会員の協力を得て、十六年度の事業も予定通り進めております。

今年度取り組んだ中の二つの事業『歴史をふりかえって』の編纂と継続して行なわれている『五稜校の会』例会を紹介致します。

◇『歴史をふりかえって』
道教大の再編を機会に夕陽室蘭の歴史を振り返り、先輩の残してくれた輝かしい足跡を辿り記録に残し、今後の教育活動にも生かすべく編纂に取りかかりました。多くの先輩諸氏から貴重な資料を寄せていただき、五回の編集会議を経て、発刊することができました。

先輩諸氏が営々として築き上げてきた夕陽会室蘭支部の輝かしい歴史と伝統を守り、発展させることが責務と自覚するとともに、会員一人一人が「木々の一本一本」として持てる力を発揮し、結集さ

せて「美しい教育の森の創造」を目指して切磋琢磨していくことを再確認したところです。

◇『五稜校の会』に参加して
八 田 由紀子

かれこれ十七・八年前になりますが、夕陽会室蘭支部女性会員の集いは『五稜校の会』と名付けられました。心和ませる優しい笑顔の、自らも桜の蕾のように初々しかった(現在は咲き誇る満開の桜のごとく……) 昭和五十三年卒業、宗像美貴子先生の命名でした。

可憐な中に郷愁漂うこの名は、集う私たち女性会員の心を一つにし、毎年の例会では時の経つのも忘れ、思い出話に、悩み相談に、教育論に満開の花を咲かせます。

さて、今年度の『五稜校の会』は、ご勇退されたお三方の先輩を囲んで、そのご活躍から多くを学び、元気を頂きました。話題は二次会でも尽きず、後日コーヒーマ会も予定されました。妻として母として女性として、そして何よりも人として今を謳歌する輝きが、若々しい美しさのコーラゲンである事を教わりました。

学習会や懇親会など同窓会の多くの事業の中でオアシスである『五稜校の会』『来年も絶対会おうね!』の声に次回幹事は今から張り切っています。

母校のこれから～再編後の函館校

平成16年10月22日に、北海道教育大学の「再編基本計画」が決定されました。再編後の函館校の姿を中心にしながら、再編計画の概要についてお知らせします。

1 北海道大学再編の基本方針

教員養成と新課程の充実発展を期して、各校ごとの小規模の教員養成への分散と新課程の併存を止め、単一の大学として効果的に現代課題に応えられるように、既存の課程を抜本的に集約・再編したキャンパスごとの機能分担システムに転換する。

2 再編の概念図

総学生数及び5キャンパスを維持し、「地域をリードする教育・人間・文化の創造的人材の養成」を目指す。

〈現 状〉

函館校 275	学校教育教員養成課程	140
	生涯教育課程	20
	国際理解教育課程	20
	芸術文化課程	20
	情報社会教育課程	75
札幌校 270	学校教育教員養成課程	120
	養護教諭養成課程	20
	国際理解教育課程	30
	芸術文化課程	70
	地域環境教育課程	30
旭川校 285	学校教育教員養成課程	130
	養護教諭養成課程	20
	生涯教育課程	95
	芸術文化課程	20
	地域環境教育課程	20
釧路校 215	学校教育教員養成課程	135
	生涯教育課程	20
	国際理解教育課程	10
	地域環境教育課程	50
岩見沢校 165	学校教育教員養成課程	135
	生涯教育課程	30

総計 1,210人

(教員養成課程700人+新課程510人)

〈再編後〉

人間地域科学課程 330

函館校～地域社会に貢献できる人材の育成

①人間発達専攻 60名 (小学校免許取得可)

- 人間を教育、心理等の分野から総合的に研究・理解し、現代における人間の問題に根元的に向き合う人材を育成。

②国際文化・協力専攻 60名

- 現代社会における多様な文化、価値観、歴史、生き方を理解し、実践的コミュニケーション能力を養うとともに、日本文化を深く探求し、さらに、国際協力等を通して、国際社会で活躍する人材を育成。

③情報科学専攻 60名

- 情報基礎を学び情報倫理を身に付け、社会情報を多面的に研究し、さらに、自然、社会、人文、芸術等の「生きた情報」をデザインすることによって、情報力を様々な分野へ応用できる人材を育成。

④地域創生専攻 80名

- 豊かで、魅力と活力あふれた「地域づくり」のために、健康福祉、地域の文化・行政・経済等の諸課題を研究し、誰もが幸せに暮らせる地域の創生に貢献できる人材を育成。

⑤環境科学専攻 70名

- 北海道の自然環境、生活環境、産業等をフィールドとし、地域における人間の営みをグローバルな観点から科学し、新たな「地域科学」を創出して持続可能な循環型社会の構築に寄与できる人材の育成。

芸術・スポーツ教育課程 180

岩見沢校～地域社会のスポーツ・芸術活動に貢献できる人材の育成

芸術課程

- ①音楽コース (声楽専攻、鍵盤楽器専攻 など)
- ②美術コース (絵画専攻、デザイン専攻 など)
- ③芸術文化コース (芸術教育専攻 など)

スポーツ教育課程

- スポーツ教育コース (スポーツコーチング専攻 など)

総計 1,210人

教員養成課程 700

札幌校 250～新しい教育課題に対応した専攻の充実

- ①教育臨床専攻 ②特別支援教育専攻
- ③養護教育専攻 ④総合学習開発専攻
- ⑤基礎学習開発専攻

旭川校 270～各教科教育の内容的改善・充実

- ①教育発達専攻 ②国語教育専攻 ③英語教育専攻
- ④社会科教育専攻 ⑤数学教育専攻 ⑥理科教育専攻
- ⑦生活・技術教育専攻 ⑧芸術・保健体育教育専攻

釧路校 180～地域に結び付いた小学校教育を中心

- ①地域学校教育専攻 ②地域教育開発専攻
- ③学校カリキュラム開発専攻

全学的集約・再編

母校Q&A ～ 奥田 亨氏（副学長・函館校担当）に聞く

Q 「人間地域科学課程」では、どのような人材を育成するのでしょうか。また、卒業後の就職先はどのようになるのでしょうか。

A 様々な分野において、地域をリードできる創造的人材の育成を目指しています。就職先については、情報や環境にかかわる一般企業、公務員等が想定されますが、具体的なカリキュラムの内容とともに今後考えていかなければならない大きな課題の一つだと思います。

なお、この課程の理念として、次のような人材を育てることをあげています。

- 豊かな現代的教養と専門的学芸を身に付け、地域社会に積極的に貢献する人材
- 自ら課題を見つけだし解決できる、チャレンジ精神に富んだ人材
- 人間と国際社会に深い理解と愛情をもち、多様な価値観を理解し、創造的、個性的で想像力豊かな人材

Q 「人間地域科学課程」という名称を聞いても何を勉強できるのかが分からず、受験者が減少してしまうことはないのでしょうか。

A 確かに分かりにくい課程名ではありますが、例えば「人間発達専攻」や「国際文化・協力専攻」など、専攻レベルまで説明すると分かってもらえると思います。

また、課程の理念や各専攻の特徴等をまとめたパンフレットを作成し、それを持参しながら高等学校を訪問して説明しています。今後は、道南だけでなく東北地方の高等学校への説明も行っていきたいと考えています。

このような活動を通して、高校生にも本校の目指す理念等をしっかり理解してもらえたならば、魅力ある大学として多くの受験生が集まると確信しています。

Q 新しい函館校で、教員免許は取得できるのでしょうか。

A 一般大学と同じように、中学校と高等学校の教員免許は取得できます。ただし、取得可能な教員免許は、国語、社会、数学、理科、英語及び高等学校の情報の6教科になります。

さらに、「人間発達専攻」の60名の学生については、小学校や幼稚園、養護学校の教員免許が取得できます。

なお、養護教諭特別別科については、今後も存続させる方向で考えています。

Q 新しい函館校としての学生募集は、いつから始まるのでしょうか。また、現在の学生はどのようになるのでしょうか。

A 新しい大学としての学生募集は、平成18年度からになります。平成17年度までに入学した学生については、卒業まで現在のカリキュラムで勉強してもらうことになります。

Q 夕陽会員の多くは、母校から教員養成課程がなくなることを極めて残念に思っています。と同時に、新しい函館校が今まで以上に充実発展することを心から期待しています。このことについて、どのようにお感じでしょうか。

A 函館校が90年の長い歴史の中で残してきた教員養成の伝統と実績から考えますと、私も教員養成課程がなくなることは誠に残念でなりません。しかし、北海道教育大学がさらなる充実発展を目指してキャンパスごとに明確な機能分担をしていこうとなったわけですから、函館校としては、「人間地域科学課程」を学生にとって魅力あるものにするとともに、地域をリードできる人材の養成に最大限の努力をしていかなければならないと考えています。

夕陽会の皆様には、これまでも常に函館校を温かく支援していただき、心から感謝しております。今後も、新しい函館校の発展のために、これまで以上に力と知恵をお貸しいただきたいと思います。

※母校の再編についての情報は、「夕陽会報」や夕陽会のホームページでタイムリーに紹介していきたいと思っています。

前納会費納入会員名簿追加分

大橋 瑞恵 昭39
冬野 越史 昭42
齋藤 良子 昭33
小西 三郎 昭32
上田 和子 昭41
市根井 孝悦 昭38
(平成十七年二月二十八日現在)

夕陽会員計報

服部 安正氏 昭5
埼玉県朝霞市岡3の27の30の318
三寺 恒夫氏 昭22
帯広市西8条南28の15
蛭子 芳信氏 昭18
函館市美原2の17の21
小笠原公助氏 昭6
函館市柏木町36の19
葛西三太郎氏 昭4
函館市千代台町20の4
石井 七郎氏 昭5
秋田県大館市東台6の6の23
市川 五郎氏 昭22
函館市柏木町1の53
木村雄太郎氏 昭20
七飯町字仁山46の6
高野 範夫氏 昭22
東京都練馬区氷川台4の1の23の105
中川 弘一氏 昭29
札幌市東区北31条東5の1の12
倉嶋 義昌氏 昭12
札幌市東区苗穂12の6の15
山本 禎寿氏 昭20
札幌市西7条南34の22
池田 茂市氏 昭4
河東郡音更町緑陽台仲区11の14
印 鑰 悟郎氏 昭22
富良野市下御料
(平成十七年二月九日現在)

受賞(章)おめでとう
ございます

〔高齢者叙勲〕
加藤 彬氏 昭和11年I卒
函館市本町二の二三

〔文部科学大臣表彰〕
齋藤 幸子氏 昭和32年II卒
函館市八幡町四の二五

〔函館市文化賞〕
千葉 喜彦(軒岳)氏 昭和34年卒
函館市東山二の五の一〇

〔藍綬褒章〕
清野 弘子氏 昭和39年I卒
函館市日吉町一の七の六

〔札幌市教育実践功績者表彰〕
青柳 史匡氏 昭和42年卒
札幌市北区太平八条五の五の七

〔渡島管内教育実践表彰〕
鈴木 秀明氏 昭和46年卒
函館市赤川一の二七の一四



前納会費制度

ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用下さるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の〇印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生 五千元
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円

④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へ一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆同期会だよりや支部だよりをお届けくださと呼びかけておりましたが、この度、昭和二十九年卒の会報「二期会」と十勝巴湾会の支部だより「かけはし」が送られてきました。前者には、会報十六号(最終号)と記されていました。早速、代表幹事の遊佐先生に連絡を取り、最終となる同期会について一筆お書きいただくことになりました。前号では、昭和十九年卒の解散大会を畠山慶一先生にお書きいただき、今回はその十年後の同期会終会のお知らせと、なにやら縁を感じないわけにはいきません。

◆十勝巴湾会「かけはし」では、田中信宏会長の巻頭言に「文字通り会員相互の「かけはし」となつて」とあります。この「夕陽会報」も広く会員皆様のかけはしとなつて、お目にとまってくれるよう願っております。

◆史跡五稜郭のそばにそびえるタワーの中に、同窓小寺真知子氏の新しい作品、土方歳三座像が完成し設置されたとの由、やがて取り上げたいと計画しております。

◆次号依頼「次回「支部だより」は、札幌支部と日高支部の予定です。準備をお願いいたします。

◆お願い…各支部会報や同期会報ができあがりましたら情宣部までお届けくださるようお願いいたします。またバックナンバーもございましたらお届けください。

(情宣部長 藤川 潔 記 昭45年卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学教育学部附属函館小学校内 北海道教育大学夕陽会本部
電話番号(0138) 46-2235
夕陽会専用(0138) 34-5520
FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鳴亭)氏(昭4卒)